

神ギ協

神奈川ギター協会

〒244-0801

横浜市戸塚区品濃町 511-3

カサハラビル品濃町 301

西本ギター教室内

Tel & Fax. 045-825-8815

2021/8/1 発行

(編集責任者 飯田敏史)

第49回神奈川新人ギタリストオーディション

2021年7月11日(日) 神奈川県横浜市磯子区民センター「杉田劇場」

神奈川ギター協会主催

写真とレポート:川俣 明 (神奈川ギター協会委員 兼 名誉会員)



(入賞者と入選者、ゲスト審査員：荘村清志氏)

講評

2021年7月11日(日) 神奈川県横浜市磯子区民センター「杉田劇場」で第49回神奈川新人ギタリストオーディションが開催された。昨年度はCOVID-19の影響で止む無く中止となってしまったが、本年度は十分な感染対策のもとで開催された。今回は26名の応募者で、さすがに例年よりは少な目であったが、それでもまずまずの盛況であったと言えよう。

今回は荘村清志氏を本選ゲスト審査員として迎えた。第一人者として本邦ギター界を牽引し続ける荘村氏に審査して頂く事は出場者のみならず神奈川ギター協会にとっても喜びであった。

13時00分に開始された予選では課題曲のF.タレガ作曲の「ラグリマ」と各自が登録した3分以内の自由曲の演奏で、審査された。予選課題曲は教則本などにも載っている親しみやすい曲でもあり弾きなれた曲でもあろうが、緊張などにより、僅かながらでも綻びを見せてしまった奏者には厳しい結果

となった。課題曲を確実に演奏できた者の中から、自由曲の演奏で高得点を得た者が本選出場に決まったと言えよう。集計の結果5名が予選を通過し、本選へと進んだ。

本選では課題曲のS.L.ヴァイス作曲の「ファンタジー」と、各自が登録した6分以上10分以内の自由曲を演奏した。本選の採点は従来どおり80点を合格の目安とし、上下10点ずつの幅を持たせて採点し、平均点を出して判定する方法を採った。結果、平均点で合格点を得た3名が、他の2名に少し大きく差をつけての入賞合格となった。又、4番目の得点者を次点入選者と決定した。表彰式では莊村氏より「14歳から72歳までの年齢差があるオーディションなどは今回が初めてで、人生経験が如実に音にあらわれていて、本当に楽しませていただきました。」との御言葉を頂いたように、なかなか味わいのあるオーディションであったと思われる。

以下に本選の演奏順に結果と評を記す。

1.藤崎哲郎(ふじさき てつろう) <入選・次点>

予選自由曲: ベネズエラワルツ第3番(A.ラウロ)

本選自由曲: ソナタ第一番 (H.アルベルト)

美しい音色で、低高音の響きもバランスの良い演奏スタイルに思えた。課題曲は落ち着いた感じで始まり、後半の部分の小さなミスも、確固としたスタイルが崩れないので安心して聴き終えることができた。自由曲は冒頭少し荒い音色が出てしまったが、すぐに落ち着きを取り戻した。2楽章も落ち着いた雰囲気で奏されたが、鋭い感じの和音と軟らかい単音の音色との違和感が少し気になった。3楽章のテーマとその展開の仕方もよく手の内に入った演奏だった。全体的に決して派手な方向に走る演奏ではないが「ハートフル」といった雰囲気が感じられて好感の持てるベテランらしい演奏であった。

2.小橋田ひろみ(こぎった ひろみ) <入賞・合格>

予選自由曲: 前奏曲ホ長調(M.M.ポンセ)

本選自由曲: 「詩的ワルツ集」より「序章」「第1章」「第3章」「第4章」(E.グラナドス)

中学生ということで、最近はバリバリと難曲を弾きこなす世代というイメージもあるが、全体的に爽やかな演奏を聞かせてくれた。課題曲は、早目のテンポで弾き進め、音色も美しく、軽やかな印象だった。音色の「粒ぞろい」という面では課題が残ったかもしれない。自由曲では演奏に切れ味の良さも加わって緩急の弾き分けも良く、曲の持つ魅力を良く引き出していた。無理に教え込まれた過剰な表現というのを感じられず、むしろ淡々と演奏しているのだが、その演奏からは「叙情性」といったようなものを感じられたのは、なかなか得難い個性と思われる。後半は少し疲れが出たのか表現的に纏めきれない部分も出たようであるが、全体的には安定感のある魅力ある演奏であった。

3.望月亮平(もちづき りょうへい) <入賞・合格>

予選自由曲: 前奏曲ホ長調(M.M.ポンセ)

本選自由曲: イギリス組曲(J.W.デュアルテ)

豊かな音量と確実な技術を持つ奏者で、課題曲は、その技術を以て、サラッと弾き切った印象であった。「粒ぞろい」という面と、曲の時代認識(原曲はバロックリュート)という意味では異論も出るかもしれないが、ギター曲として澁刺とした演奏であったことには変わりはない。自由曲でも熱い表現意欲と高い演奏技術で聴衆を唸らせる演奏を展開した。第一楽章と第三楽章の速い部分、第二楽章の良く考えられた緩急にも、それは良く表れていた。さて、最後に少し「曲の長さ」を感じさせられてしまったような気がするが、どうだろうか?曲が聞き慣れた曲であるせいかもしれないが、音色の使い方が単調に傾かないように工夫する余地があるようにも思われた。

4.堀江基之(ほりえ もとゆき) <入賞・合格>

予選自由曲: 「BWV1004」より「ジーク」(J.S.バッハ)

本選自由曲: 「5つのバガテルより」1、5 (W.ウォルトン)

豊かな音量と確実な技術を持つ奏者であるが、その音色は独特のものを持っている。それは十分に明るく、そして十分に質感を感じさせる迫力のある音色である。課題曲は原曲の時代背景をも加味したと思われる少しゆったり目のテンポで始められ、良い雰囲気だった。後半は早めのテンポで華やかさのあまり、一か所ヒヤリとさせたが大きな傷とせず、見事に弾き切った。自由曲は持ち前の技術と音色で、聴衆をワクワクさせるような迫力のある、そして流れの良い素晴らしい演奏を展開していた。さて無いものねだりを言う様ではあるが、W.ウォルトンの曲というのは更には「陰りや暗さ」のある表現も求められるのではないだろうか？ そういう意味では、会場に響いた音色は、明るさ、力強さが少し過ぎたかもしれない。

5.杉本みどり(すぎもと みどり) <入選>

予選自由曲: ハバネラ(E.S.デ・ラ・マーサ)

本選自由曲: グラン・ソロ (F.ソル)

十分な音量と明快な音色を持っている。課題曲は速めのテンポで従来からのギター曲としての演奏スタイルに則ったものだった。冒頭のパッセージなど少し不安定なところもあったが、まずは無難に纏め上げていた。自由曲の序奏では細かい音符に小さなキズも見られたが、全体的には堂々とした仕上がりだった。アレグロの部分に入ると、快速なテンポで曲は進められたが、手に余ったような箇所が少し見られて、思い描いた本来の仕上がりには至らなかったように思えた。

入賞者インタビュー

(インタビュー: 酒井良祥)



【堀江 基之さん】

・本日の感想

去年応募していたのですが、コロナで延期になって結果的に2年という準備期間ができてしまいました。自由曲は新しい曲に変更したのですが、この期間準備するというのはメンタル的にも結構きつかったので今はホッとしています。

・使用ギター

桜井正毅 マエストロ-RF(2011)

・ギター歴 (ギターを始めたのは?)

高校生2年生の頃にギターを始め、クラシックギターは3年生の時に独学ではじめました。

・今後の目標・抱負

これから死ぬまでにどれだけ上手くなって弾き続けられるかだと思っています。次から次へとやりたい曲が出てくるので。他のコンクールとかはまだこれから考えていく予定です。



【望月 亮平さん】

・本日の感想
率直に言って疲れました。

・使用ギター
パウリーノ・ベルナベ(杉 1974)

・ギター歴 (ギターを始めたのは?)
ギターを始めたのは小学校5年生の頃、エレキギターを父の影響で始めました。クラシックギターは15歳の頃から習い始めました。今現在クラシックギターの他にアコギやウクレレなんかも演奏しています。

・今後の目標・抱負
自分の音楽がもっと良くなるように勉強していきたいと思っています。今はそれだけです。



【小橋田 ひろみさん】

・本日の感想
本選課題曲のファンタジーでミスをしてしまったので、入賞できないと思っていました。入賞できて嬉しいです。また、コロナ禍の中でも、このように演奏できたことを大変ありがたく思っています。

・使用ギター(もしあれば、気に入っているところなど)
カシミロ・ロサーノ ダブルトップ 2018年製作 30th アニバーサリー
このカシミロ・ロサーノはダブルトップなのですが、ダブルトップだと感じさせない自然な音色が気に入っています。弦長640mmなので、小柄な私でも扱いやすいです。

・ギター歴 (ギターを始めたのは?)
3歳頃です。

・今後の目標、抱負
今、中学3年生で受験生です。音楽高校に進学して、クラシックギターを学びたいです。

本選審査集計表

	西本	莊村	石田	飯田	井上	川俣	酒井	志田	高久	多治	堀井	平均点	合否
1: 藤崎 哲郎	82	81	76	74	76	81	73	78	75	78	76	77.27	次点
2: 小橋田 ひろみ	83	80	79	84	84	87	76	80	87	79	80	81.72	○
3: 望月 亮平	84	85	83	80	85	84	80	84	82	81	81	82.63	○
4: 堀江 基之	85	88	85	83	81	88	78	85	86	80	×	83.90	○
5: 杉本 みどり	78	79	78	76	77	76	74	75	74	75	77	76.27	

×は師弟関係のため審査対象外

●イベント報告

・総会

2021年2月14日（日）、神奈川ギター協会の総会がZOOMでのオンライン会議で開かれました。

・神奈川ギターフェスティバル2021

2021年6月13日（日）神奈川ギターフェスティバル2021が横浜関内ホール小ホールで開催されました。

昨年は中止となり、今年もコロナの影響で様々な変更点がありましたが、無事に開催できました。制限の関係で来場者は例年の半分程度となりましたが、喜んでいただきました。

●委員会から

2022年第50回神奈川新人ギタリストオーディション課題曲が決定しました。

予選課題曲は、ソル練習曲 Op.35-17「夢」（版自由）

本選課題曲は、バーデン・ジャズ組曲より、第一楽章「シンプリシタス」

●神奈川ギター協会のホームページが新しくなりました。

→<http://kanagawaguitar.net/index.html>（アドレスが変更されています）

コンサート案内をリアルタイムで紹介していますのでご覧ください。またはパソコン・スマートフォンをお持ちのお弟子さん、ご友人にお尋ねください。

ホームページへのコンサート案内掲載は、酒井良祥委員に電子メールでお知らせください。尚、掲載は会員の関係するコンサートに限ります。

【編集後記】昨今、オンライン開催のコンサートが増えました。「ホールで聴く派」が大多数だと思いますが、時間と場所の制約がなくなる分、以前はコンサートに行けなかった子育て世代の方や地方在住の方がファンが。私も国内・海外のコンサートをオンラインで楽しんでいます。人に会えないデメリットはありますが、時間の節約ができ、コンサートに行くことを前提に身支度をしなくて良いので、これはこれでとても助かります…。（飯田）